

令和3年度市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門・創造的) 事業実績

事業者	団体名	食物アレルギーっこの親の会 しろうさぎ	代表	多久田 大介
事業内容	助成事業名	知ることからはじめよう!「食物アレルギーってなに?」		
	事業目的	食物アレルギーについて当事者もそうでない方も知ることから理解を深め、食物アレルギーがあるなしに関わらず、楽しい社会生活を送れる環境を広める。		
	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・会員:14家庭 ・代表1名、副代表2名(会計兼務1名)、監査1名 		
	事業の内容	<p>①実施日:令和3年10月~12月(3回実施)</p> <p>②対象者:支援センターや公民館等に来所する子ども、保護者など 参加人数:総合計40家族</p> <p>③実施場所:子育て支援センターみやこファミリー/久松ママの会/麻生児童館</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーの教材を利用した紙芝居劇 ・子どもにわかりやすい絵本の読み聞かせ ・アレルギーがあっても食べられるスーパーで買える馴染みのあるお菓子を紹介し配布・表示の見方の説明 ・災害時の困りごとについてパネルを使い説明 等 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会 食物アレルギーに関する不安を解消し、孤立を防ぐ <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーの理解を深める図書の貸出 		
	事業の成果	<p>この度の事業を通じて食物アレルギーについて知ることができ、危険を予測し対応することができそう、また自分の周りにもアレっ子がいたら何ができるのか一緒に考えたいという声をいただきました。防災、食物アレルギーについて、まず知ることのできるのか考えるきっかけになったのではと感じています。</p> <p>また、参考図書の貸し出しの利用でより理解が深まったとの声もいただきました。会の存在を知ってもらえつながることができました。</p> <p>課題として、子どもの年齢に応じて柔軟な教材選びが必要だと感じました。</p>		
	今後の活動の展望	<p>「食物アレルギーに困っている人」が周りにいる割合が高い乳幼児の年代をメインに食物アレルギーについて理解を深める活動(小さなイベント)を行い続ける。その活動を地道に続けていくことで乳幼児を含めた保護者の理解が深まり、活動年数が長くなれば、食物アレルギーを理解する人が増え、相互理解が深まる効果が期待できる。</p>		
費用	総事業費	100,000円	助成金額	100,000円

令和3年度市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門・創造的) 事業実績

事業者	団体名	久松山麓合唱祭実行委員会	代表	新倉 健
事業内容	助成事業名	久松山麓合唱祭		
	事業目的	本事業は、音楽を愛するものが職業・世代等を超えて協力し合い、コンサートを開催することを通じて、平和でよりよい社会の実現に向けて、お互いに深め合い、高めることを目的とする。目的に賛同される小団体で演奏会を開催する。		
	実施体制	この事業に賛同し、参加を希望される合唱団から代表者を選出し、実行委員会(12名)を組織し、運営にあたる。		
	事業の内容	7月・8月に新型コロナ感染者が急増し、鳥取県内の警報や不要不急の外出自粛要請が出るなどしたため、この秋の久松山麓合唱祭の開催は困難と判断し、事業を中止することになった。 参加団体の中には中学生・高校生もあり、合唱疲労のための練習もままならない(合唱なので集まって合わせる必要がある)状況であったこと、新型コロナウイルスの感染状況の見通しがたたない(冬場になると悪化することが懸念される)ことから延期も難しく、今年度の開催を断念せざるを得なかった。		
	事業の成果			
	今後の活動の展望			
費用	総事業費	新型コロナウイルス感染拡大のため事業中止	助成金額	—

令和3年度市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門・公益的) 事業実績

事業者	団体名	にほんごがくしゅうかい	代表	豊田 真規
事業内容	助成事業名	クロスロードゲームワークショップin Tottori		
	事業目的	SDGsが掲げる「安心して暮らせるまちづくり」に関わる防災や多様性について、自己の見解を持つとともに、外国人を含む他人や社会を理解するのにワークショップを役立てる。このゲームを広く知らせることにより、住みやすさの進んだ社会へ近づける。		
	実施体制	代表兼事務 1名 広報 2名 協力 5名 途中より、とっとり県民活動活性化センターの協力を得て オンライン実施のテクニカルスタッフ 2名		
	事業の内容	実施日:令和4年3月6日(日)午後1時から午後4時まで 対象者、参加人数:募集30名のところ、15名参加 実施場所:オンライン(Zoom遠隔会議システム上) 概要:神戸クロスロード研究会理事の濱尚美氏がゲームの概要と全体の司会を担当し、SDG'sに関連する4つのテーマの設問をグループに分かれて共有、ディスカッションした。		
	事業の成果	以下のような感想が得られたので、ゲームを知ってもらおうという目的、テーマについて自他の意見を知り、お互いを知るといった目的は、ある程度達成できたと思われます。 「ゲームについて、初めてのメンバーと対話が促進される仕組みを持つこと、テーマについて深く知ることができることを理解した。」 「自分の持つ意見とは違った意見に出くわし、多角的な考え方の大切さを実感した。」 課題:外国人、日本人双方の参加人数が少ない点		
	今後の活動の展望	今後、数年で複数回(第10回達成)のクロスロードワークショップを開催し、この対話促進ゲームを相互理解や多文化理解のツールとして鳥取県に広めたいと思います。今後の活動に協力を依頼できるほどこのゲームに深く関心を持つ参加者もあり、一緒に活動を続けたいと思います。		
費用	総事業費	44,133円	助成金額	33,000円

令和3年度市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門・公益的) 事業実績

事業者	団体名	電子紙芝居で語る民話の会	代表	福本 政男
事業内容	助成事業名	鳥取の民話や昔の出来事をDVDにして後世に残す		
	事業目的	鳥取に伝わる民話や昔の出来事を電子紙芝居で紹介をしています。プロジェクターでスクリーンに投影し、語り手はバックミュージックにあわせて物語を紹介します。いつでも鳥取の民話を手軽に楽しんでいただき、後世に伝え残すことを目的として今回は予算の関係で10話程度の作品を、DVDとして作成を考えています。		
	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・現在5名で活動中。会長1名、会員4名。 ・全員で物語の見直し、確認を行う。 ・その後業者に委託し、DVD作成を行います。 ・完成後は、図書館・小学校・福祉施設などに寄贈し、誰でもどこでも語り手がいなくても民話を楽しんでいただけるようにし、貴重な民話をDVDとして残します。 		
	事業の内容	<p>9/10: DVD作成のための選定会議(コロナ禍のため、電話での打ち合わせ) 20話中の中から10話の物語を選ぶ 参加人員5名</p> <p>10/25: 業者との打ち合わせ 現代商業研究所の事務所で打ち合わせ 参加人員3名</p> <p>11/10: 現代商業研究所スタジオにおいて収録 参加人員2名 3話収録</p> <p>12/5 : 現代商業研究所スタジオにおいて収録 参加人員2名 3話収録</p> <p>1/7 : 現代商業研究所スタジオにおいて収録 参加人員2名 4話収録</p>		
	事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・電子紙芝居をDVDという形でデータ化して、後世に残すことができるようになった。 ・作成されたDVDをもとに、YouTubeなどにアップして更に大勢の方々に見ていただけるようなことも可能になった。 		
	今後の活動の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDが完成したので、県立図書館、市立図書館などへ寄贈し興味のある方に観ていただく。 ・今後も新しい紙芝居の作成や上映に力を注ぐ。 ・また、DVDとして完成されていない紙芝居が10話程残っており、今後の検討課題とする。 		
費用	総事業費	250,424円	助成金額	200,000円